

事業所防災リーダー通信 2026 Vol.6

事業所防災リーダーのみなさまへ、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。



従業員の防災意識を高めましょう

防災訓練の効果を高め、従業員自身の安全・安心を守るためにも防災意識を高めることは重要です。日頃から防災に関する情報を発信し、**従業員が防災について考え、行動する機会を増やしましょう。**

Action



1 定期的に伝えよう

- 防災に関する情報や知識を定期的に発信し、従業員の防災意識の継続と向上を心がけましょう。



いつ発信するか迷ったら……

- 例1) 3月11日(東日本大震災)や9月1日(関東大震災)など、実際に災害が起きた日に合わせる
- 例2) 備蓄食料の賞味期限が切れそうなときに、従業員に配布しながら備えることの大切さを伝える

- 気象庁の避難レベルのように**新たな情報や変更があったときには、広報等で従業員が共有**するようにしましょう。

2 全員に伝えよう

- 「興味ある人だけに届く」ということにならないよう、全員が集まる朝礼の時間を活用したり、社内報のスペースを利用したりするなど、多くの人の目に留まるよう工夫しましょう。
- 在日外国人就労者が増加しているため、日頃から日本の災害の現状を「**やさしい日本語**」を活用し伝えてあげましょう。異国で生活している方々が安心でき、職場のコミュニティのきっかけになります。

※参考:東京消防庁「[外国人のための防災ハンドブック](#)」

3 工夫して伝えよう

- 難しい内容だと情報が届きにくいいため、リーダー通信やコミックエッセイ(マンガ)、パンフレットも活用しましょう。
- 防災の専門家など、「防災について伝えるプロ」を呼ぶことも効果的です。
- バーチャル防災訓練・eラーニング・東京消防庁WEB(電子学習教室)**などを活用すれば、低コストながら従業員みんなで、楽しみながら自分事として学べます。



※出典元「東京事業所防災実践マニュアル」
P118～P121 「9.事業所内で防災の普及啓発をすべし」より



東京事業所防災実践
マニュアルはこちら

【参考】

東京には「そなエリア東京」(東京都江東区)など、防災の知識や意識を高めることができる学習施設があるので、研修がてら活用するのも一つです。
東京都教育委員会によるWebページ「[行ってみよう！都内にある防災体験施設](#)」もぜひ参考にしてください。
<https://www.anzenedu.metro.tokyo.lg.jp/shisetsu/>



東京都からのお知らせ

地震による火災の約6割は電気が原因(電気機器からの出火・停電が復旧したときの火災)とされています。東京都では、地震の強い揺れを感知して、電気を自動的に遮断する【**感震ブレーカー**】の設置を呼びかけています。

設置促進に向け、親しみやすいネーミングが決定しました。

ネーミングは、**グラグラ揺れたら、ぴたっと電気を止める【グラぴたスイッチ】**です。

※グラぴたスイッチについては以下のURLをご参照ください。

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1028034/index.html>

グラグラ揺れたら、ぴたっと電気を止める



**グラぴた
スイッチ**

を設置しましょう！